

【注意】入試への出願の際は大学HP (<https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/21daigakuin.html>) に掲載の募集要項をご確認ください。

経済学研究科博士後期課程

(1) 開設授業科目(予定)は次のとおりです。

授業科目と担当教員		
領域	授業科目	担当者
マネジメント	マーケティング論特研 企業論特研 比較経営史特研 経営情報論特研 管理会計論特研 労働関係法特研 財務会計論特研 企業ファイナンス論特研	教授 松隈 久昭 教授 河野 憲嗣 教授 渡邊 博子 准教授 松岡 輝美 未定 未定 未定 未定
地域政策	自治体経営論特研 地域産業構造論特研 経済地理学特研 交通論特研 公共経済学特研 共生社会論特研	准教授 高島 拓哉 教授 宮町 良広 教授 大呂 興平 教授 大井 尚司 未定 未定
経済社会環境分析	労使関係論特研 経済政策論特研 経済史特研 国際政治論特研 現代社会分析論特研 経済統計論特研 計量経済学特研 国際金融論特研	教授 石井まこと 教授 高見 博之 教授 市原 宏一 教授 ディスティーブン 教授 豊島慎一郎 未定 未定 未定

(2) 演習

《マネジメント》

演習名	担当教員職・氏名	演習の内容
マーケティング論演習	教授 松隈 久昭	本演習では、マーケティング論の理論を体系的に習得し、学生の研究課題に沿った分析を行う。マーケティング論の主な内容は、新製品開発、価格政策、流通システム、販売促進活動、消費者行動からなるが、まずは基本的文献により、それらの体系的な理解に努める。次に、研究テーマに関する専門書や学術論文の検討を行い、研究計画に基づいて文献収集とアンケート調査等によりデータ収集を進める。そして、データ処理のための分析方法を学び、論文の作成を進める。
企業論演習	教授 河野 憲嗣	本演習では、発生から現代に至るまでの社会における企業のポジションを検証した上で、企業と会社、あるいは企業と事業の比較分析に基づいて、企業がもつ顕在的および潜在的な可能性について考察する。特に地域やコミュニティの課題を解決するための社会イノベーションを想定して、これに企業が果たしうる役割課題を軸として洞察を深める。指導にあたってはジャンルの如何を問わず社会実装を前提としたテーマ設定を尊重し、かつ経営人類学的手法の活用を重視する。
比較経営史演習	教授 渡邊 博子	本演習では、日本経済の現状分析や歴史的展開、ならびに日本経済の成長を支えている（支えてきた）産業や企業を対象に、発展過程の比較とともにイノベーション過程や発展戦略に関する調査・研究を行う。また、世界の中での日本の位置づけを理解したうえで、他国や他地域と同対象分野の比較研究を行う。さらに、今後の展開については政策論的な検討を進めていく。幅広い観点や独創的な視点からの博士論文の完成に向けて、具体的テーマの設定、問題意識の明確化、文献・情報の収集・分析、実態・実証研究の方法とその進め方、報告や発表の仕方など、受講生の要望にも応じながら指導していきたい。

《地域政策》

演習名	担当教員職・氏名	演習の内容
自治体経営論演習	准教授 高島 拓哉	自治体経営においてはかねてより民主性と効率性という二つの要請をいかに調和させていくのかが焦点となっている。この点に市場化やNPMの流れがどのように関連しているかを軸にして検討を進めたい。具体的には政治学、行政学、財政学、社会学、都市計画学等において先行研究のサーヴェイを進め、それをふまえ、特に社会福祉の制度・政策に焦点を当てて具体的な制度分析を進める。
地域産業構造論演習	教授 宮町 良広	本演習では、経済地理学・地域産業論の分野のなかで、受講生の研究テーマに即して理論面および実証面のバランスを取りながら指導を行う。理論面では、地域構造論、レギュラシオン理論、多国籍企業論などから主要論点を研究指導する。実証面では、現代経済の主導的産業について、ローカルからナショナル、グローバルまでの各スケールにおける空間的展開、さらにスケール間の相互関係を究明する。その際、文献、統計資料などで研究対象を絞り、現地調査によって地域経済・産業の実態を解明するように指導する。
経済地理学演習	教授 大呂 興平	本演習では、受講生が関心を持つ地域の諸現象や諸問題について、それを深く理解し正確に説明すべく、理論面と実証面のバランスを取りながら研究指導を行う。具体的には、理論面としては、経済地理学や地域産業論、農業経済学の分野を中心に、先行研究を検討し分析視角を確立する。実証面としては、統計資料や文献を通じて現象を俯瞰的に把握するとともに、濃密なフィールドワークを通じて現象のメカニズムを現場から精緻に解明することを目指す。最終的には、博士学位論文を自立的に完成させるべく、必要な事項の習得を体系的に行う。
交通・観光政策論演習	教授 大井 尚司	本演習では、交通（主に陸上交通）・観光と地域に関する社会経済の問題で、受講生の希望する研究テーマについて研究指導を行う。先行研究の十分なサーベイ、データ・政策資料の収集と分析、現状分析（現地・現場での調査を含む）を行い、学会発表や論文投稿を複数回行ったうえで、博士論文の執筆につなげる指導を行う。分析手法（学問分野）は、（交通・観光）経済学・政策学、交通・都市・地域計画、公益事業論、などで、文理融合的な分析になることもある。

《経済社会環境分析》

演習名	担当教員職・氏名	演習の内容
労使関係論演習	教授 石井 まこと	<p>本演習では労働条件および雇用管理の決定に関して、歴史事実の考察および国際比較の両面から検討を行う。国際的には、労働者からの主体的な労働条件改善の運動・実践が社会化し、政策へと展開している。ところが日本では労働運動の主張が社会化し、政策展開までいくことはみられにくい。この問題の解明には、歴史的事実の再検討が重要な示唆を与える。こうした歴史的経路依存性の研究に加えて、仕事創出と労使関係の関係性についても検討を行う。就業機会創出に対して、これまで展開されてきた労働者自らによる自主的な就業機会創出にむけた取組について検討を行い、福祉社会と労使関係に関するテーマ設定につなげていく。</p>
経済政策論演習	教授 高見 博之	<p>本演習では、主としてミクロ経済学の分析手法を用いて、現実の経済政策や望ましい経済政策について検討を行う。政策を検討する際には、政府の行動の背後にある財・サービス市場、生産要素市場や金融市場状況も考慮し、より広い視点から考察することを重視する。研究テーマの設定については受講生の問題意識や関心にしたがい、先行研究の収集と整理をもとに、当該分野での新規の貢献となるような博士論文が作成できるよう研究指導を行う。</p>
経済史演習	教授 市原 宏一	<p>東部中欧地域における社会経済的發展を特徴づける歴史的な前提条件について文献史料と考古学資料の総合的な検討を行う。文献史料に基づく先行研究成果の整理検討を通じて、社会経済近代化を特徴づける要因の一つとしての「ドイツ人植民」の意義と役割を確認する。さらに地域固有の要素については、スラヴ農村および物流それぞれに関する近年の考古学研究成果の整理をおこない、工業化前の農村社会の特徴と近代化過程における環バルト海世界を通じた社会経済的な交流の深さと広がりについて検証する。</p>
国際政治論演習	教授 デイ スティーブン	<p>この演習の目標は、比較政治学の研究を行う上で必要となる基本的な方法を身につけさせることである。そこでは、批判的分析に関わる方法や「いかに」そして「なぜ」といった問いなど、質的方法についてとくに強調する。こうした方法は、学生がさまざまな方法的アプローチや方法的な基盤をもった研究を通じて身につけることができる。この演習では、①研究課題を明確にすることの重要性や独立変数、媒介変数を的確に把握することが必要であること、②ひとつの過程を追うこと、そして焦点をしぼって比較するといった多様な研究方法が有効であること、③幹部への聞き取り、内容分析、非当事者の観察といった方法的技術の有用性などを中心にして指導を行う。(研究指導は英語が中心になります)</p>
現代社会分析論演習	教授 豊島 慎一郎	<p>本演習では、現代社会が直面している諸問題の解決を目指し、社会現象が生じるプロセスの実証的解明に向けて、社会学の理論と方法に基づいた研究指導を行う。</p> <p>内容は、演習生の研究テーマおよびその先行研究に関する報告・議論が中心となる。そのため、演習生は、入学時までに社会学の基礎を身につけておく必要がある。</p>